

令和8年度第2回志木市社会教育委員会議録

日時 令和8年7月28日（火）

午後2時

～3時30分

場所 市民会館仮設会議室1

出席委員：竹前榮二、宮原正幸、有馬隆江、一ノ倉達也、星野祐子、
石井都、神谷惣治、野島悦子、渡部静夫、庄司早苗、
荻島亜紗美、中村和子、渡辺恵（順不同、敬称略）

欠席委員：市之瀬初男（順不同、敬称略）

市：徳留生涯学習課長、松永主査、石川主任、石井主事

1 開 会

2 議 事

（1）生涯学習推進指針の改訂案について

事務局より説明

「志木市生涯学習推進指針」について今年度末に向けて改定作業を進めている。これまでの12月、3月、6月の会議を経て委員からの意見を反映し、今回、冊子形式での指針案を作成した。本日の会議をもって社会教育委員からの意見聴取は一区切りとして、今後は生涯学習課で庁内調整を図っていく。

①全体、基本指針1について

事務局より説明

前回からの大きな変更点

全体

- ・「指針目標」を「基本理念」という文言に変更。
- ・「指針項目」を「個別指針」という文言に変更。
- ・「個別指針」の下に、詳細な説明文を追加。

基本指針1

- ・「基本指針1 個別指針2（1）子どもたちの学び（2）親としての学び」について、標題の後ろにあった括弧書きを削除。
- ・「基本指針1 個別指針3（1）多様な学習機会の展開」について、標題の後ろにあった括弧書きを削除。
- ・「異世代交流」という文言を「世代間交流」に変更。

〈意見・質疑応答〉

（委員）子どもには、机に向かって勉強するだけが「学び」ではなく、遊ぶことも「学び」である。そういった包括的な子どものための学びが、文言に表現されると良いと考えている。

（事務局）前回「子どもたちの学び」の後ろに括弧書きで（外遊び・体験学習機会の提供）を入れていたが、今回、説明文を追加するに当たり括弧書きを削除している。直接的表現を省いただけで、内容は含むものと考えて作成した。

（議長）「リカレント教育」とはなにか。

（事務局）一度社会に出た人が、大学等に入り、再び学ぶことをリカレント教育と呼んでいる。社会人の学び直しとして、国や県でも生涯学習計画や指針に盛り込まれている考え方である。

（委員）数年前まで「親の学習」という事業をやっていたかと思う。現在はやっていないのか。

（事務局）「親の学習」事業については、コロナ禍で一度中止になった以降、家庭環境の大きな変化の中で以前のような方式での事業実施が難しくなった。現在でも志木市立PTA連合会に実施を依頼し、部分的に継続している。

（委員）具体的事業名の記載について、「にんまある」などの事業名は正式なものではあるが関係課以外、説明が無いと事業の内容がわからないのではないのか。「妊婦さん向けの事業（にんまある）」などの表記上の工夫が必要に思う。

（事務局）事業名から内容がわかりにくい事業について、表記する際は記入の仕方を工夫したい。

（委員）全体的に句読点と中黒の使い分けを整えた方がよい。

（事務局）整理します。

（委員）「個別指針2（1）子どもたちの学び」の文中の「多様な体験・活動」を「多様な体験・活動・遊び」にしてはどうか。また、具体的な事業名に、SHIKISAIパートナーズがいろは親水公園で開催している「いろはプレーパーク」も入れたらわかりやすいと思う。

（事務局）都市計画課がSHIKISAIパートナーズへ管理委託している事業について、都市計画課事業であるため、今後調整したい。

②基本指針2について

事務局より説明

前回からの大きな変更点は特になし。

〈意見・質疑応答〉

（委員）子育て支援事業でもある「ブックスタート事業」は、乳幼児の保護者を図書館の利用につなげるよい事業である。具体的事業名として入れるべきだと思う。

（事務局）柳瀬川図書館に確認し、対応を考えたい。

（委員）子どもに外遊びをさせたくても、遊び場となる公園が少ない。市としてはそういう環境整備に取り組むことで、子どもも変わっていくのではないか。

（議長）生涯にわたり学び続けるというのは、机に向かったり本を読むだけではない。今も誰もがやっていることである。生涯学習課は、どのように学び続ける支援を続けていこうと考えているのか。

（事務局）いろいろな活動をしている市民団体に支援をしていこうと考えている。

（委員）中高生のボランティア活動や地域活動への参加が見えにくい現状がある。地域と子どもをつなぐ場、地域活動へのきっかけづくりについて生涯学習課はどのように考えているか。

（事務局）SNS（Twitter 等）を活用した情報発信を行っているものの、若者への周知が課題と考えている。ただし、地域と子どもたちをつなぐ場として「放課後志木っ子タイム」という事業があり、市民を先生とした踊りやサッカー等の講座を実施している。また、きっかけづくりについては子どもに限らず大人も含めて、グループサークル情報誌を提供している。あくまで社会教育であり、ボランティアの窓口ではない。

（議長）「学び」という文言がどこにも入っているが、「活動」と言い換えたらどうか。

（事務局）基本は「学び」に「活動」も含まれると考えている。言い換えについては、適宜文脈を見て考えたい。

（委員）いろは遊学館の学社連携は、とてもよい事業だが、志木小学校の生徒しか対象になっていないがよろしいか。各学校で、地域の特徴ある団体や人と一緒に活動している。他の学社連携についても文中で触れても良いのではないか。

（委員）子ども会の事業はほとんどが「遊び」である。「遊び」が「学び」になるというのは同感である。

③基本指針3について

事務局より説明

前回からの大きな変更点

- ・「基本指針3 個別指針1 学んだ成果を生かすための支援」について、「（2）市民協働による施設運営やさまざまなボランティア活動の場の充実」を「（1）幅広い層の市民が参加できるような事業の展開」に盛り込み、削除。

〈意見・質疑応答〉

（委員）「個別指針3（1）日本の伝統文化にふれることができる事業を実施」

と「基本指針4 個別指針（1）伝統文化に親しむことができる場の提供」の内容が似ている。どういった棲み分けを考えているのか。個別指針3のほうは、「全ての子どもが文化芸術にふれる場の提供」にしたらどうか。

（委員）伝統芸能と文化芸術は似た言葉のようだが、文化芸術のほうが広い言葉だと思う。

（事務局）文化体験道場等を念頭に置いていたが、伝統文化に限らず芸術鑑賞等も含む広い表現への見直しを検討する。

（委員）文化協会として文化体験道場を何年も請け負って実施している。少しでも日本の文化に触れて大人になってほしいという思いがある。大切なことだと思う。

（委員）文化祭・市展・芸能祭があると思うが、市はさらに芸能関係の事業を実施しようという意図なのか。

（事務局）市として生涯学習の目指す方向性を示していくものなので、この指針に基づき、各社会教育施設と連携を図り、芸能関係だけでなく様々な事業を展開していきたい。

（議長）「実施」より「支援」の言葉の方がよいと思う。

（事務局）市の主催としては文化祭などがあるが、「支援」もしているからこの言葉を使用したいと思う。基本指針3と基本指針4の違いについては、基本指針4は、文化財や志木市固有の文化芸術に特化していることをイメージし、棲み分けを考えている。

（委員）言葉の統一が図られていない。先ほど説明のあった「異世代」と「世代間」以外にも、似通った表現が使われている箇所がある。表題と中身が合っていないところもあるので整えたほうがよい。

（事務局）修正する。

（委員）人権学習の機会について、今回「多様な学習機会の展開」の中に含まれる形で整理しているが、志木市は人権研修会で様々なテーマで事業を実施していることが特徴的だと感じている。今後、独立した項目にしないのか。

（事務局）「多様な学習機会の展開」は、確かに大きな表題になっていると認識しているので、改めて検討したい。

（委員）資料記載の具体的事業名は、継続的に実施している事業を記載しているのか。それともどこかの時点で集計した事業名なのか。

（事務局）令和7年度実施した「生涯学習推進指針」の検証結果として、各課より令和6年度中に実施した事業名より一部を記載している。毎年固定化した事業のみを記載しているわけではない。今後、関係課と調整し、具体的な事業を掲載する。

④基本指針4について

事務局より説明

前回からの大きな変更点は特になし。

志木市は小さな市でありながら、各地区にお囃子が継承され、お祭りが活発であることは市の特徴であると考えている。こうした文化を大事に継承していきたい。

〈意見・質疑応答〉

（議長）今年の敷島神社のお祭りも盛大に行われた。説明にもあったがこれは他市と比べて大きな特徴であると思う。市民は誇りに思っている。

（委員）お囃子の活動はお祭りくらいしか無くなってしまっている。今度完成する歴史館でお囃子の様子を上映して貰い、多くの人に知ってもらえればと思っている。個々の囃子連では女性や子どもの参加が多い団体もあり、助成制度などがあると大変ありがたい。

（委員）伝統芸能に参加している子どもたち自体も本気で後任や文化の継承を考えて努力している。

（議長）町内会の夏祭りに参加すると、若い人が担っている様子も見える。各地区、文化の継承のため努力している。

（委員）地区の祭りにPTAとしてお手伝いをしているが、親が参加すると子どもも参加する。おやじの会主催事業についても、さくら連絡網だと親の目にしか届かず、事業に興味がある子どもがいたとしても来てくれないため、学校でチラシを配布することで、子どもから親へという形で周知することができるため、来てくれるケースがある。子どもには事業に参加したいというニーズはあると考えている。

（委員）殺陣は志木市ではまだ浸透していないが、お芝居の一種として日本の文化ではあると思う。

（委員）「（１）伝統文化に」のところを「（１）郷土の伝統文化に」にした方が個別指針３とブレが出ないかと思う。委員の皆さんのお話を聞いて、志木市の文化に誇りを持っていることが感じられる。十文字学園女子大学の学生も、こうした地域の活動に興味のある学生が多い。大学としても志木市と連携してやれることが多そうだと改めて感じた。

（２）その他

4 閉 会

次回会議：令和８年９月２９日（火）午後２時から

いろは遊学館第１研修室、第２研修室にて